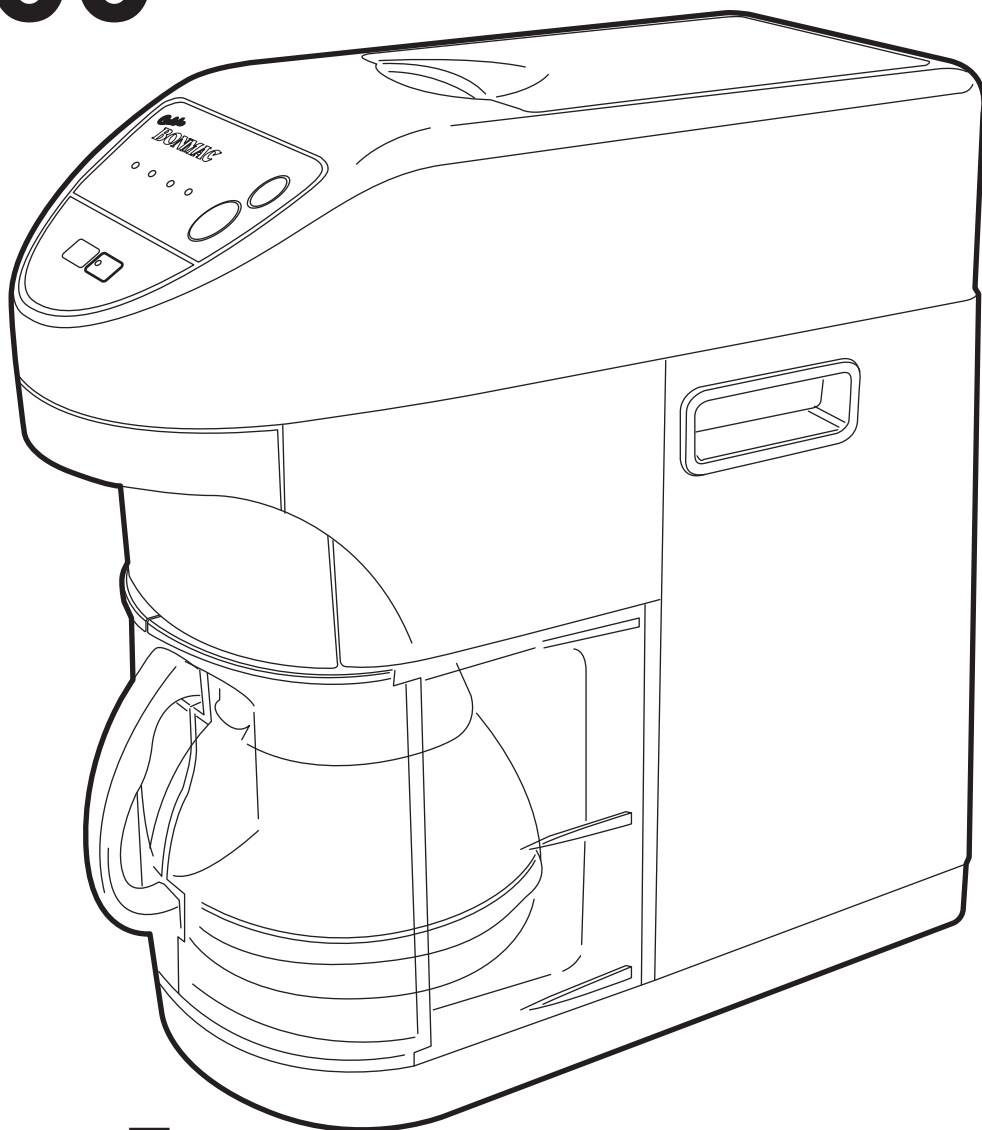


コーヒーブリューワー

BM-3100

取扱説明書



目 次 頁

● 安全上の注意事項	1 ~ 2
● 各部の名称	3
● 操作方法	4 ~ 8
準備	4
コーヒーの抽出	5
保温する	6
Ecoモード	6
入タイマー機能	7
空だき防止機能について	7
使用後の排水方法	8
● お手入れ	9 ~ 14
● 故障かな?	15
● 仕様	15
● 製品保証書、無料修理規定	裏表紙

このたびは BONMAC コーヒーブリューワーをお求めいただき、まことにありがとうございます。

ご使用になる前に、この説明書をよくお読みいただき、十分にご理解いただいたうえで正しく操作してください。

この説明書は、必要な時にいつでもお読みいただけるようわかり易い場所に大切に保管してください。

安全上の注意事項

- ・ご使用になる前に この安全上の注意をよくお読みになり、正しくお使いください。
- ・ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。

表示内容は次の通りです。

**警告**

守られないと、重大な人身事故や死亡事故につながる可能性のある事柄。

**注意**

守られないと、人に傷害を与えたり物損事故につながる可能性のある事柄。

これらの警告・注意事項をよくお読みいただき、必ず守ってください。

図記号の例	
分解禁止	必ず実施
 ○は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、○の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「分解禁止」を示します。	 ●は、強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「必ず実施」を示します。

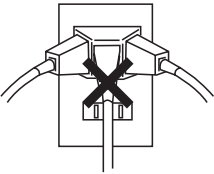
**警告**



必ず実施

コンセントは専用で使ってください。
(容量 15 A 以上か確認)

タコ足配線や延長コードの使用は過熱、発火の原因になります。

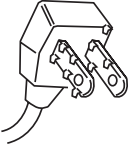




必ず実施

お手入れは、電源スイッチを「OFF」にし、湯沸かしタンク内の湯を排水してから行ってください。また電源プラグはぬれた手で抜き差ししないでください。

やけど・けが・感電をすることがあります。

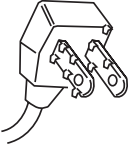




必ず実施

電源プラグの刃や刃の取付け面についたほこりは、よくふきとってください。

火災の原因になります。

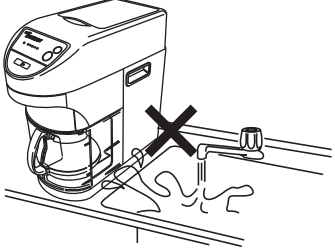




禁止

本体に水をかけたり、水につけないでください。

ショート・感電の原因になります。



水を入れる前に電源スイッチを「ON」にしないでください。

空だきして、過熱・絶縁劣化による感電・火災の原因になります。



分解禁止

改造はしないでください。
修理技術者以外は、分解・修理をしないでください。

火災・感電・けがの原因になります。



安全上の注意事項

⚠ 注 意



禁止

交流 100 V 以外では使わないでください。

使うと感電・火災・故障の原因になります。

不安定な場所や、熱に弱い物の上におかないでください。

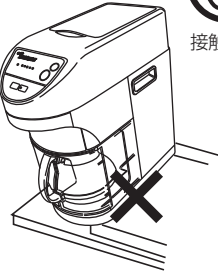
感電・火災・ショートの原因になります。

使用時は移動させないでください。

コーヒーや熱湯でやけどをする恐れがあります。

コーヒー抽出中・抽出直後にはチャンバーを抜かないでください。

コーヒーや熱湯でやけどをする恐れがあります。
コーヒー抽出後の湯沸かし中に、水の膨張によりシャワーから湯が出る場合があります。

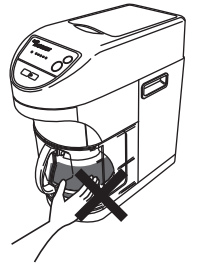


接触禁止

コーヒー抽出中や抽出直後は本体・温風口付近に触れないでください。

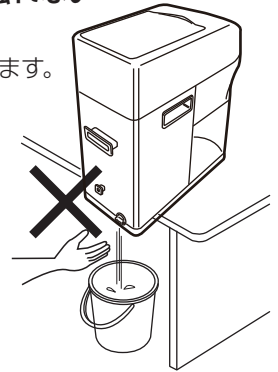
運転中は本体の上面、側面が熱くなりますので注意してください。

やけどをする恐れがあります。



排水時は排水口付近に触れないでください。

熱湯でやけどをする恐れがあります。



禁止

電源コードを持って電源プラグを抜かないでください。

コードが傷み、感電・ショート・発火の原因になります。

傷んだ電源コードや電源プラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

感電・ショート・発火の原因になります。

電源コードに無理な力がかかる、重いものを乗せる、変形させる、たばねるなどしないでください。

電源コードが破損し、感電・発火の原因になります。

長期間沸かしていない湯沸かしタンク内の水は使わないでください。

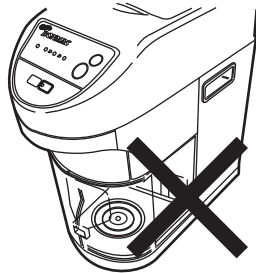
水質が劣化した場合、下痢・腹痛など体をこわすことがあります。



禁止

デカントなしで保温ボタンを「ON」にしないでください。

保温ケースが高温になり、やけどをする恐れがあります。



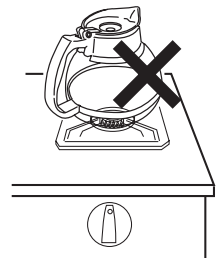
接触禁止



直火禁止

デカントを他の熱源にかけないでください。

割れてけがをする恐れがあります。

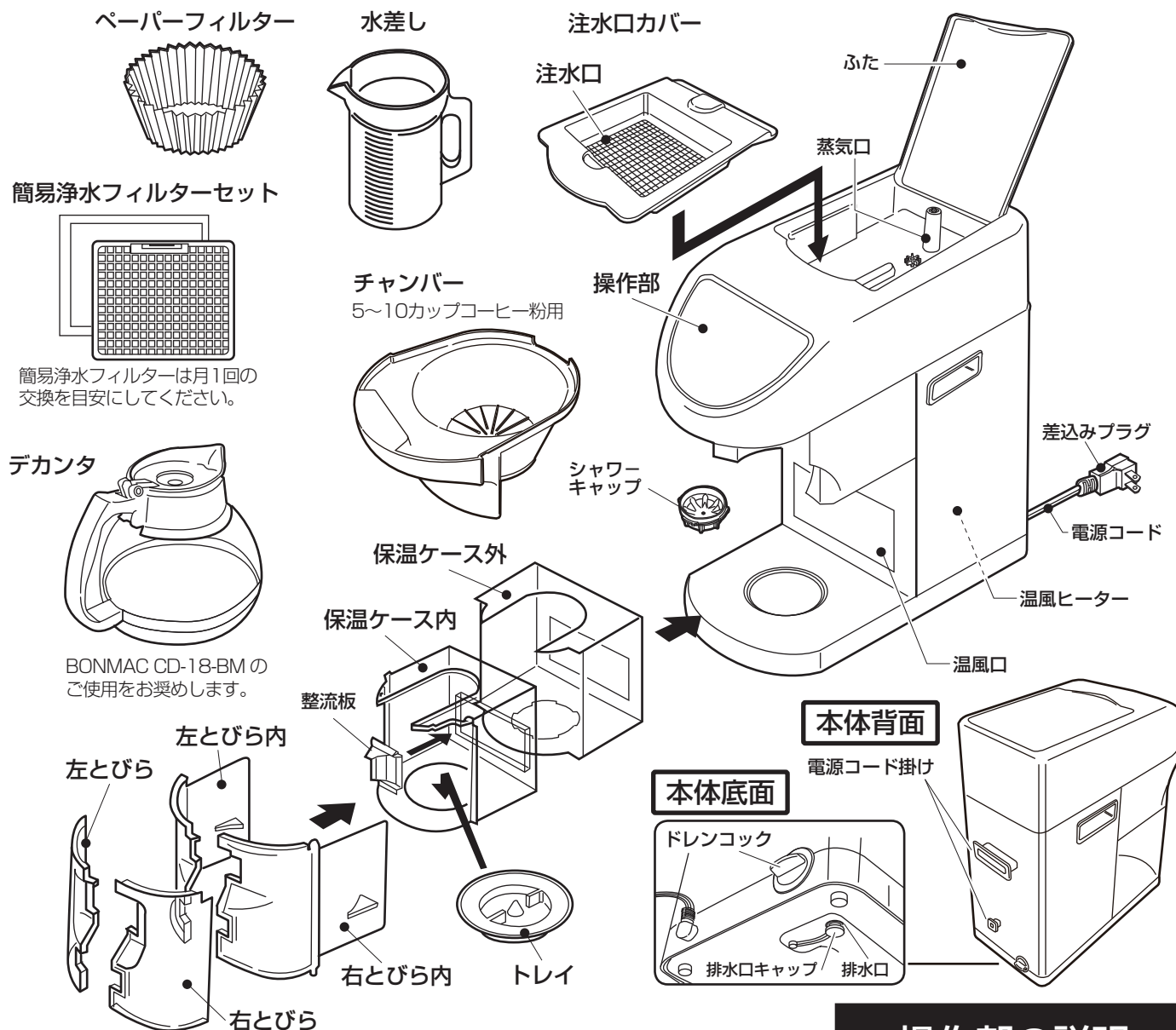


必ず実施

長期間使用しないときは、P8 の「使用後の排水方法」の手順にて、湯沸かしタンク内の水を排水し、電源プラグを抜いておいてください。

絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります。

各部の名称



操作部の説明

空だきランプ (赤)

タンクが空の状態
で電源ボタンを入れた時、
点灯します。→ P7

適温ランプ (緑)

湯沸しが完了し、抽出が
可能になると点灯します。

抽出中ランプ (赤)

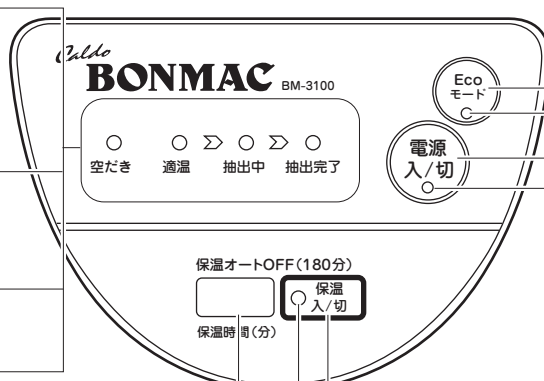
抽出中に点滅します。

抽出完了ランプ (緑)

抽出が完了すると点灯します。

表示部

温風の作動時間(分)を表示します。
また、「入タイマー機能」の設定にも
使用します。→ P7



Ecoモードボタン

約2秒間押し続けると、
Ecoモードになります。→P6

Ecoモードランプ (緑)

Ecoモード時に点灯/点滅します。

電源ボタン

押すと電源が入り、湯沸しが
はじまります。

電源ランプ (橙)

電源が入っているときに点灯します。

保温ボタン

デカンタ保温用の温風を入/切します。
温風は動作開始から約180分後に
自動的に切れます。→P6

保温ランプ (橙)

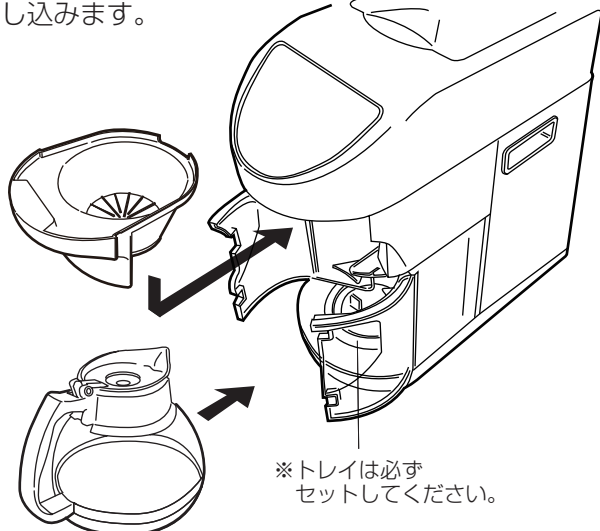
保温用の温風作動時に点灯します。

操作方法

準備（初めて使うときや、湯沸かしタンクの排水をしたときは、この手順で準備します。）

1 チャンバーとデカンタをセットします。

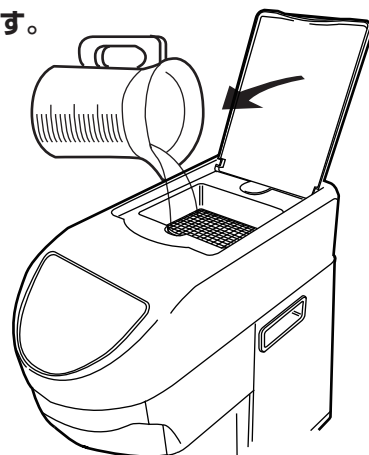
チャンバーにフィルターはセットしないでください。
チャンバーは本体の溝に沿って、突きあたるまで差し込みます。



※トレイは必ず
セットしてください。

2 湯沸かしタンクを満水にします。

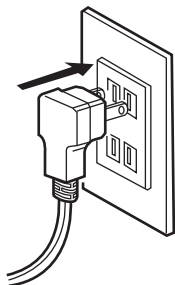
注水口から水差しで2回に分け3,000ml以上の水を入れてください。
チャンバーから水が出始めたら給水を止め、チャンバーから水が落ちなくなるまで待ってください。
デカンタにたまった水は捨ててください。



ご注意

- 給水時には、注水口から水がこぼれないように注意してください。漏電の原因になる恐れがあります。
- ドレンコックが閉じていることを確認してください。
- 一度に1,800ml以上の水を入れないでください。注水口からあふれ出ることがあります。

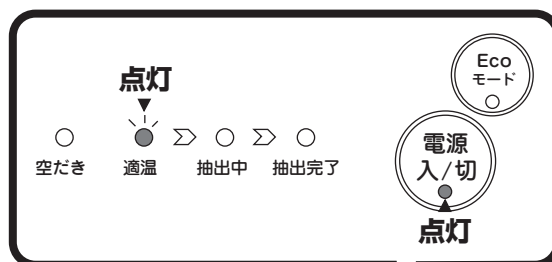
3 電源プラグをコンセントに差し込みます。



4 電源ボタンを押し、電源を入れます。

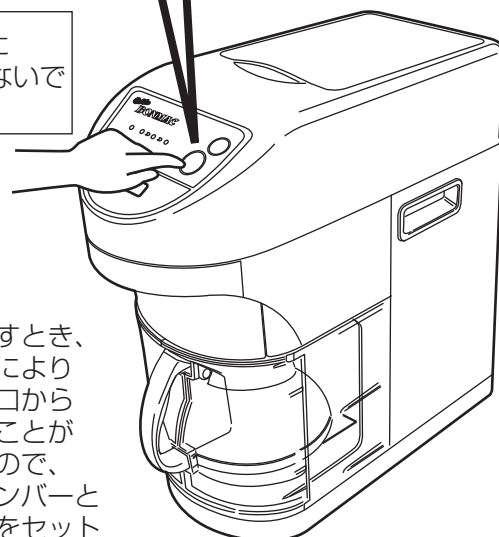
「ピー」という音がして、湯沸しがはじまります。
(約20分間)

適温ランプが点灯し「ピーピーピー」とおしらせ音がしたら抽出準備完了です。



警告

水を入れずに
電源を入れないで
ください。



湯を沸かすとき、
水の膨張により
シャワー口から
湯が出ることが
ありますので、
必ずチャンバーと
デカンタをセット
しておいてください。



ご注意

お願い

- タンクに熱湯を入れないでください。
変形・誤作動の原因になります。
- 本体のふたを開けたままにしないでください。
タンクの湯が蒸発します。
- 注水口カバーは必ずセットしてお使いください。
タンクの湯が蒸発します。
- チャンバーにコーヒー粉をこぼさないでください。
チャンバーの穴に粉が詰まって、コーヒーがあふれることがあります。
- 使用後は、タンク内の湯を放置しないでください。
タンク内のさびや湯あかがたまりやすくなる原因になります。
- デカンタを他の熱源で過熱しないでください。
デカンタの変形・破損の原因になります。

操作方法

コーヒーの抽出

1 適温ランプの点灯を確認します。

- 電源を入れてから約 20分で点灯します。
- 抽出した後は約 10分で再点灯します。
(気温・水温により変化します。)

2 ペーパーフィルターをチャンバーにセットし、コーヒー粉を入れます。

コーヒー粉はペーパーフィルターの大きさに合わせて入れてください。多すぎると抽出中のコーヒーがペーパーやチャンバーからあふれ出る場合があります。ペーパーフィルターは別売品です。
No.250, No.270, No.280 に対応します。
(※付属品のペーパーは No.250 です。)

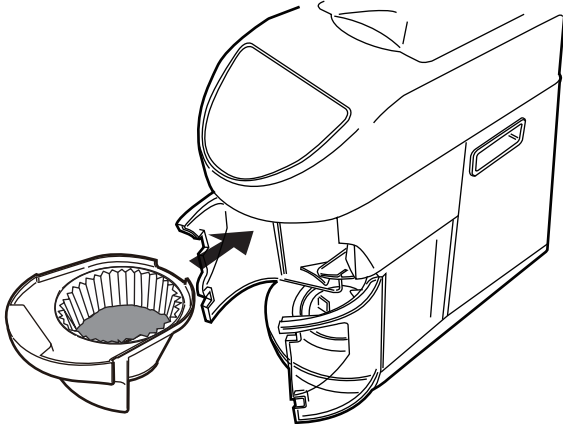


コーヒー粉の目安

No.250	100g ~ 120g
No.270	120g ~ 150g
No.280	150g ~ 160g

3 コーヒー粉の入ったチャンバーを本体にセットします。

チャンバーは本体の溝に沿って、突きあたるまで差し込みます。

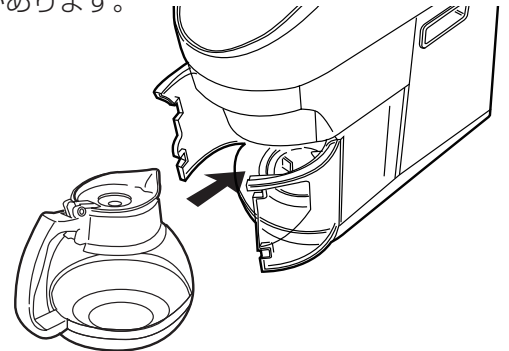


4 デカンタを保温ケースにセットします。



ご注意

付属品のデカンタはフタを閉じたまま使用できます。付属品以外のデカンタでフタ付の場合は、フタを開くか、外してコーヒーを抽出してください。デカンタをセットする際は、丁寧にしてください。勢いよくセットすると、とびらの外れや破損する場合があります。



5 注水口から水差して水を入れます。

コーヒー粉に応じた量の水を入れます。「ピー」という音がして、抽出中ランプが点滅し、抽出がはじまります。同時に保温ランプが点灯し、デカンタの保温が自動的に開始されます。(400ml以上の水を入れないと抽出ができません)

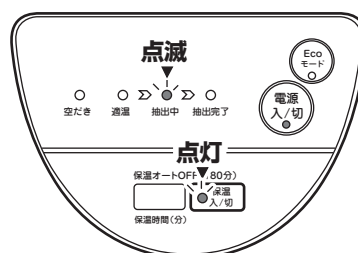
抽出が終わると「ピーピーピー」という音がして抽出中ランプが消灯、抽出完了ランプが点灯します。

※抽出中ランプ・抽出完了ランプ・音は抽出完了の目安です。デカンタを取り出す時は必ず抽出が終わったことを確認してから取り出してください。

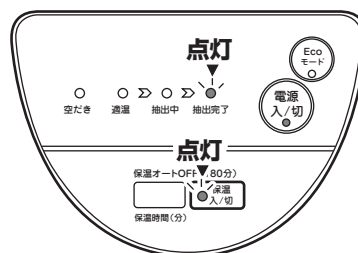


ご注意

- 給水時には、注水口から水がこぼれないように注意してください。漏電の原因になる恐れがあります。
- お湯など水以外のものは入れないでください。
- 抽出後の湯沸し中に、水の膨張によりシャワーから湯が出ることがあります。
- 1 度に 1800ml以上の水を入れないでください。



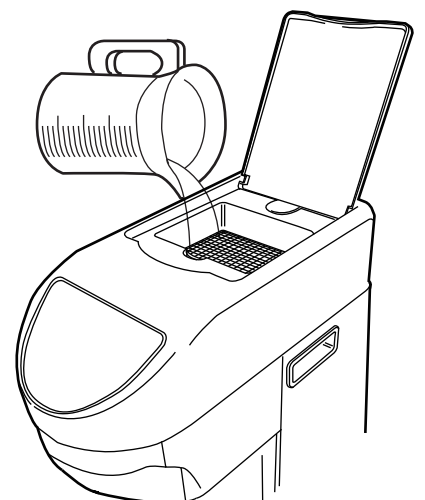
抽出が完了すると



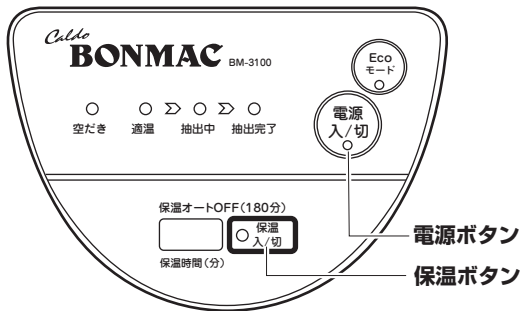
ご注意

やけどに注意

抽出中、抽出直後はチャンバーを抜かないでください。



保温する



コーヒーの抽出開始と同時に自動的に保温が「入」になり、デカンタの保温をはじめます。

●コーヒー抽出の10分ほど前に手動で保温ボタンを「入」にして、保温ケースとデカンタを温めておくことで、より温かいコーヒーを作ることができます。

●保温を続けたいとき… そのまま使用します。

保温は約180分後に自動的に停止します。

●保温をやめたいとき… 保温ボタンを押して「切」にします。

■ 保温だけを使用したいとき

電源を「切」にし、保温のみ「入」にして使用することができます。

- 電源「入」、保温「入」のとき、電源のみ「切」にすると保温はそのまま継続されます。
- 電源「切」、保温「切」のとき、保温のみ「入」にすると保温のみを行います。
- 保温は、約180分後に自動的に「切」になります。
- 水差しで水を入れてから約60分毎に、お知らせ音が「ピー」と1回鳴ります。

●保温時にはデカンタのふたや保温ケースの扉をきちんと閉めてください。閉まっていないと、熱が逃げてしまい保温されない場合があります。



ご注意

- 本体にデカンタをセットしたときは、本体を揺らさないでください。
- デカンタのコーヒーがなくなったときは、必ず保温を「切」にしてください。



ご注意

保温ケースの中に「水差し」などデカンタ以外の物を置かないでください。

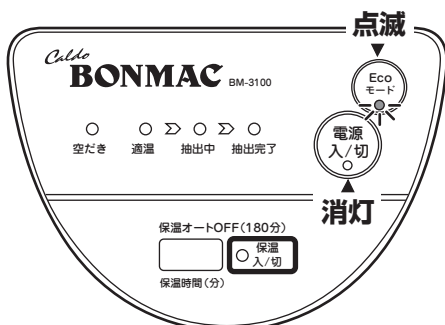
Ecoモード

本機には使用していないときに消費電力を抑える機能があります。

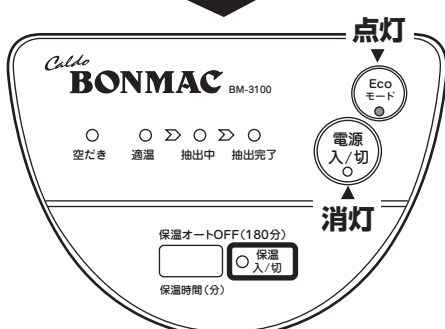
この「Ecoモード」機能には、以下の2段階の状態があります。

Ecoモード第1段階…ボイラータンクの制御温度を下げ、消費電力を抑えます。

Ecoモード第2段階…ボイラータンクの電源を切ります。



約180分後



Ecoモードスイッチを約2秒間押し続けると、Ecoモードランプが点灯しEcoモードになります。

●Ecoモード時には以下の動作をします。

1 電源を入れてから抽出しない状態が約60分続くか、抽出後適温ランプが点灯したすぐ後に、自動的にタンク内の湯温を下げます。**(Ecoモード第1段階)**
このとき電源ランプは消え、Ecoモードランプは点滅します。
タンク内の湯温を適温まで戻すには、電源ボタンを押してください。

2 上記 **1** の状態で何も操作をしないと、約180分後に電源が切れます。**(Ecoモード第2段階)**
このとき電源ランプは消えたまま、Ecoモードランプは点灯します。
電源を入れるには、電源ボタンを押してください。

Ecoモードを解除するには、Ecoモードボタンを約2秒間押し続けてください。

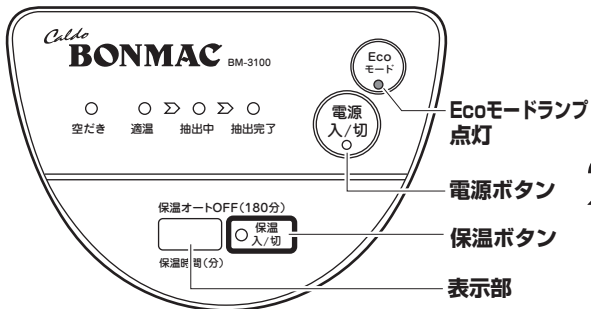
操作方法

入タイマー機能

本機には自動的に電源を入れる機能があります。

この機能を利用すると、毎日決まった時間に電源が入るように設定することができます。

この「入タイマー機能」を使用するには以下の手順で設定をしてください。



1 本機がEcoモードになっていることを確認してください。
P6「Ecoモード」を参照の上、設定してください。
※「入タイマー機能」はEcoモード時のみ有効となります。

2 電源ボタンを約2秒間押し続けてください。
「ピー」という音がして、表示部に数字が点滅表示されます。
(初期設定は0(ゼロ))

3 保温ボタンを押すと、表示部の数字が変更できます。

設定範囲：0～24（1時間刻み）

設定した数字の時間経過後に自動的に電源が入ります。
0に設定すると、「入タイマー機能」は無効になります。

4 数字を変更後、電源ボタンを押してください。

「ピー」という音がして、設定が記憶されます。
※数字を変更しても電源ボタンを押さなければ
設定は有効になりません。ご注意ください。

一度「入タイマー機能」を設定すると、その設定は本機の電源を切っても記憶されています。

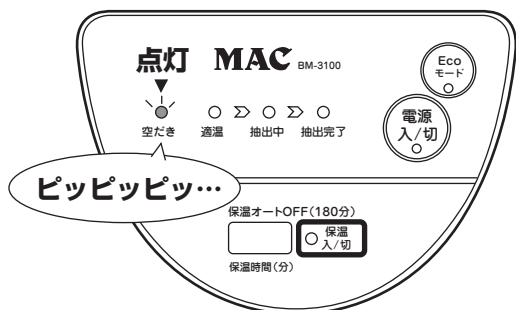
「入タイマー機能」を無効にするには上記の手順で、設定を0にするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

設定後、初回は設定した時間が経過すると、自動的に電源が入ります。

次回からは、自動で電源が入った時間の約24時間後に自動的に電源が入ります。

※停電等、電源が切断されると設定はリセットされます。

空だき防止機能について



ご注意

タンクに水を入れずに行くと
故障の原因になります。

次のようなときは、過熱による故障を防ぐために、空だき防止機能が
はたらいてヒーターへの通電を止め、ブザーと表示でお知らせします。

- タンクが満水になっていない、もしくは水の量が充分でない。
- 湯沸し中や抽出時に足し水をした。
- 少量抽出を繰り返した。

1 電源ボタンを「切」にし、ブザー音を止め、空だきランプを
消灯させます。

2 タンクに水を満水まで入れます（P4参照）

3 電源ボタンを3秒以上押し続けます。
(まず空だきランプが点灯し、ブザー音（ピピピピッ…）が
鳴りますがそのまま押し続けてください。)

4 空だきランプが消灯し、通常の動作に戻ります。

使用後の排水方法



本製品には排水口が取り付けられています。

タンク内の湯を捨てるときは、ドレンコックを開く前に排水口キャップを取り外してください。

ドレンコックを開けたあと排水口キャップを外すと、熱湯か手に当たりやけどをする恐れがあります。必ず排水口キャップを取り外したあと、ドレンコックを開いてください。

1 電源を「切」にし、電源プラグを抜きます。



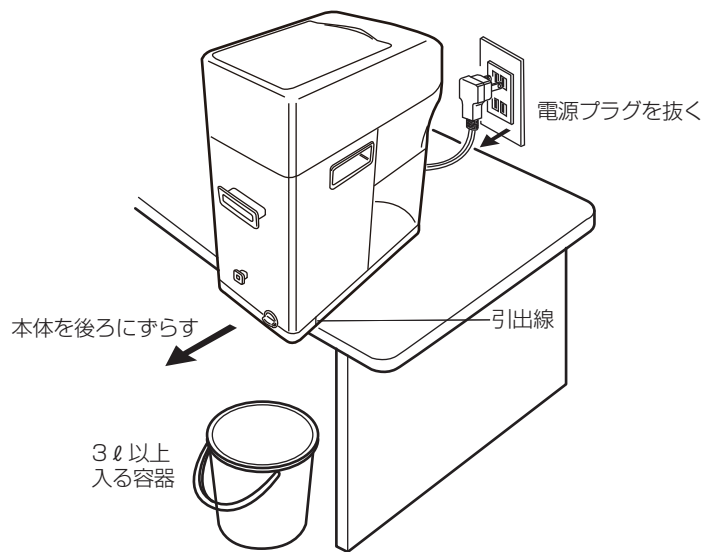
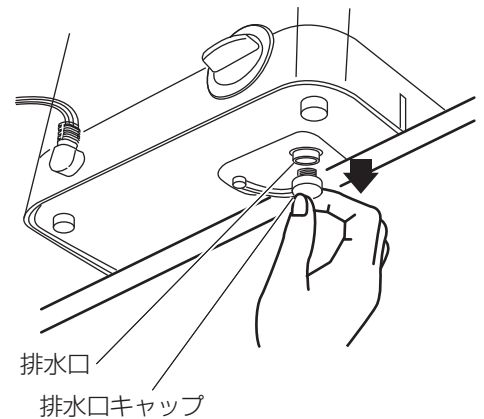
本体が冷えてからタンク内のお湯を捨ててください。

2 本体を引出線まで後ろにずらし、排水口を置台の外側に出します。



本体が傾きますので、置台からすべり落とさないように注意してください。

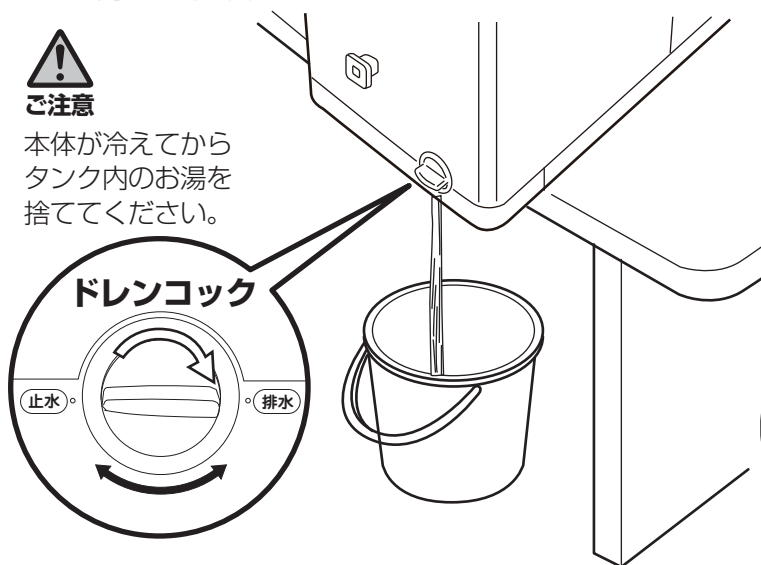
3 排水口の下に 3ℓ 以上入る容器を置き、排水口キャップを取りはずします。



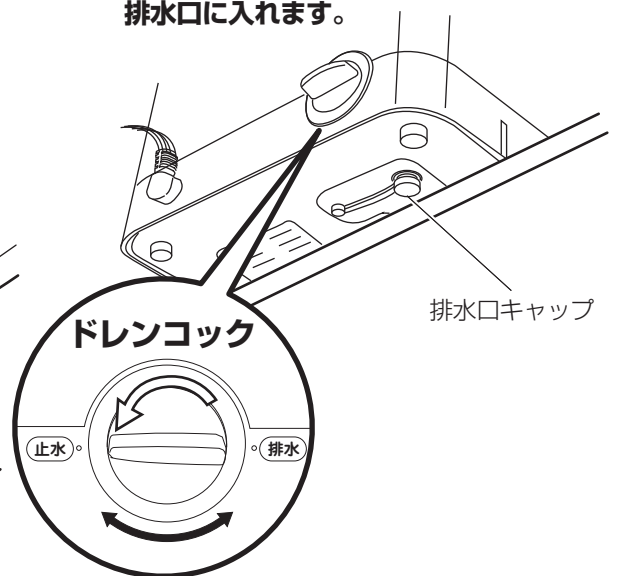
4 ドレンコックを「排水」方向に回します。 タンク内のお湯が出てきます。



本体が冷えてからタンク内のお湯を捨ててください。



5 排水が終われば、ドレンコックを「止水」方向に回し確実に閉め、排水口キャップを排水口に入れます。



お手入れ

お手入れ

- 本体や付属品が汚れたときは、汚れたままにせず、こまめに清掃してください。汚れたままにしておくと、変色や変形する場合があります。

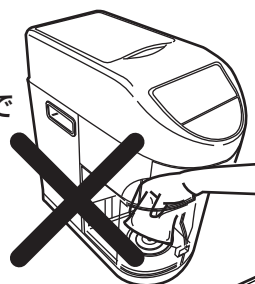


- ◎お手入れは、電源を切り、電源プラグを抜き、本体が冷えてから行なってください。
- ◎本体に水をかけたり水気の多すぎる布やスポンジの使用はしないでください。

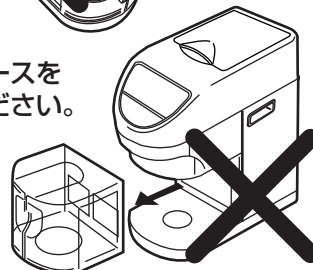
■ お手入れの際のお願い

- お手入れの際にみがき粉、たわし、ベンジン、シンナー、アルコールなどは使用しないでください。塗装面やプラスチック、ガラス容器などを傷めます。
- 本体表面に直接水をかけないでください。特に温風口からの水などの侵入にご注意ください。漏電や事故の原因になります。
- 薄めた台所用中性洗剤とやわらかい布を使用してください。
- 熱湯で洗わないでください。変形や破損の原因になります。
- 食器洗い乾燥機や食器乾燥器は使わないでください。変形の原因になります。

- 高温時には保温ケースに手を入れないでください。



- 高温時には保温ケースを取り出さないでください。



■ はじめてお使いのときや長期間使わなかったときは

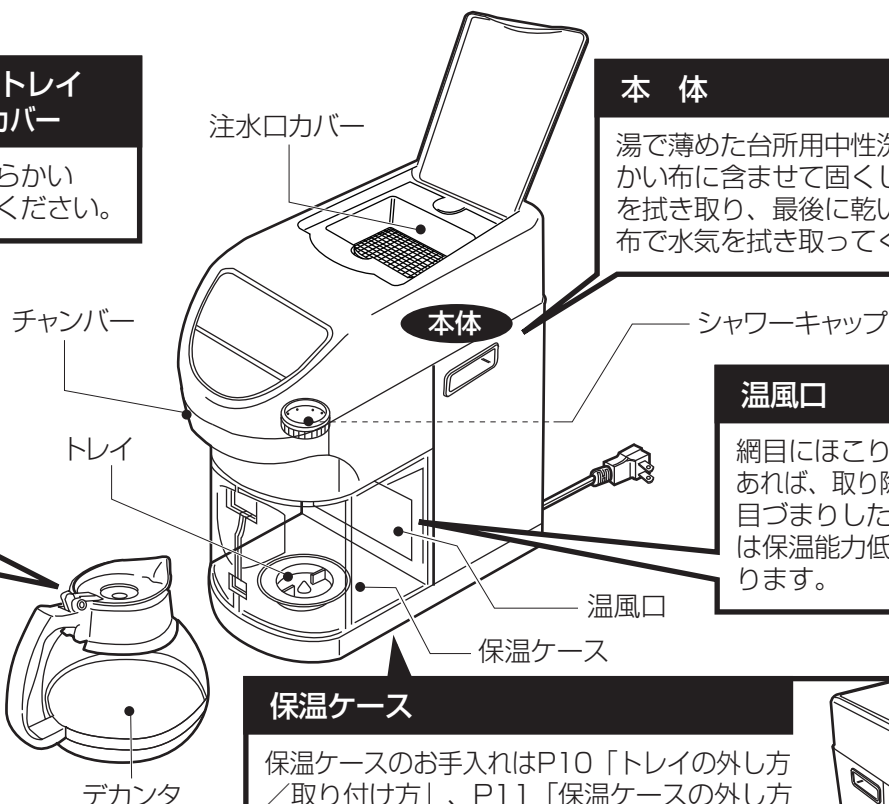
各部品を洗ってから取り付けたあと、P4「準備」、P8「使用後の排水方法」の手順でタンクに水を流して洗浄を行ってください。

チャンバー・保温ケーストレイ シャワーキャップ・注水口カバー

薄めた台所用中性洗剤を柔らかいスポンジに含ませて洗ってください。

デカンタ

薄めた台所用中性洗剤を柔らかいスポンジに含ませて洗ってください。
●みがき粉・たわしなどは使用しないでください。傷がつくと、割れる原因になります。



本体

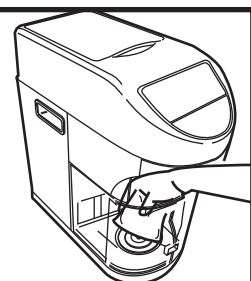
湯で薄めた台所用中性洗剤を柔らかい布に含ませて固くしぼり、汚れを拭き取り、最後に乾いた柔らかい布で水気を拭き取ってください。

温風口

網目にほこりなどの付着があれば、取り除いてください。目づまりしたままでの使用は保温能力低下の原因になります。

保温ケース

保温ケースのお手入れはP10「トレイの外し方／取り付け方」、P11「保温ケースの外し方／取り付け方」を参考に、保温ケースを外してから行いますが、簡単な汚れの場合は、右図のようにチャンバーを外し、上部の隙間からやわらかい布で拭くこともできます。

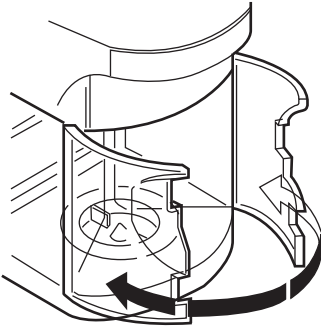


お手入れ

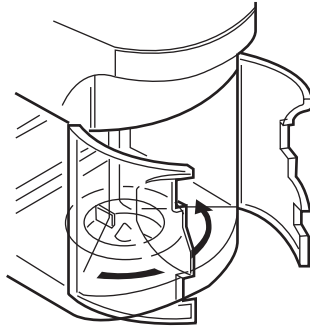
トレイや保温ケース、シャワーキャップ、注水口カバーをお手入れするときは、本体から外して行ってください。
チャンバーから湯・コーヒーの抽出（落下）がないことを確認してからお手入れを行ってください。

■ トレイの外し方／取付け方

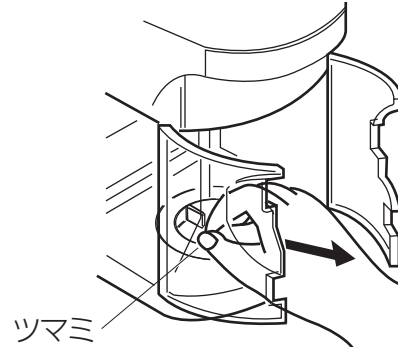
- 1** とびらを約半分ぐらい開く。



- 2** トレイを反時計回りに止まるまで回す（約45°）



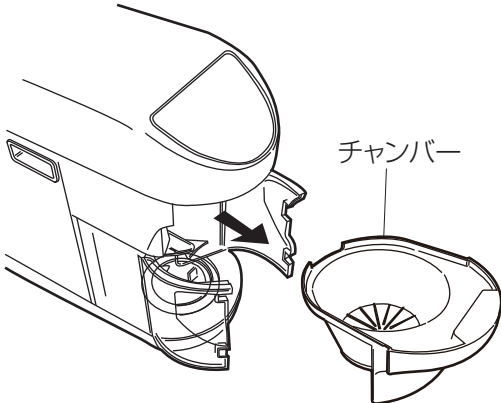
- 3** トレイのつまミを持ち上げトレイを取り出す。



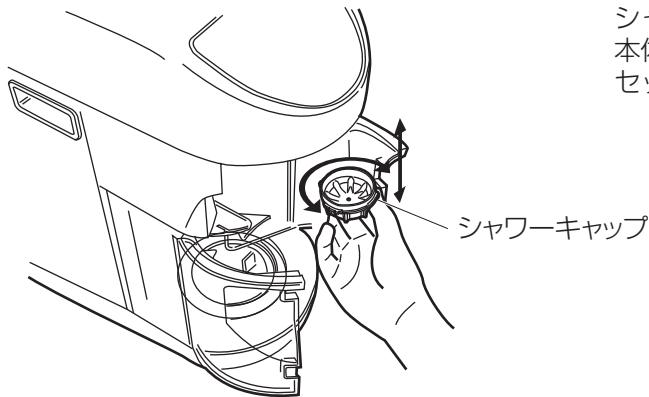
- 4** お手入れ後逆の手順で取付ける。
トレイは正しくセットしてください。

■ シャワーキャップの外し方／取付け方

- 1** チャンバーを外す。



- 2** シャワーキャップを時計回りに止まるまで回し、下へ引き出して外す。

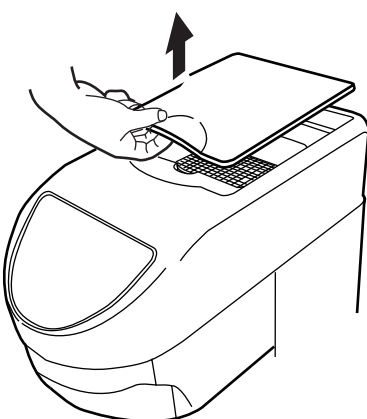


- 3** お手入れ後、逆の手順で取付ける。

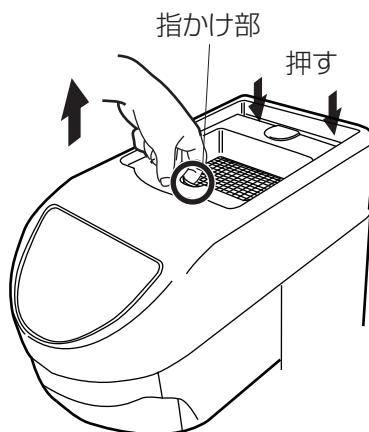
シャワーキャップと本体の凹凸を合わせてセットしてください。

■ 注水口カバーの外し方／取付け方

- 1** ふたを外す。



- 2** 注水口カバーの指かけ部に指をかけて上へ引き上げて取り出す。



- 3** お手入れ後は、注水口カバーを本体の注水部に入れて、セットしてください。



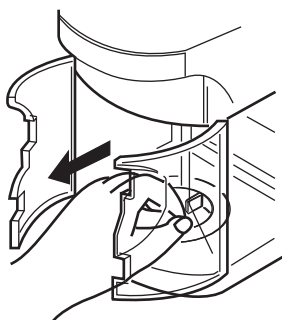
お手入れ

お手入れ

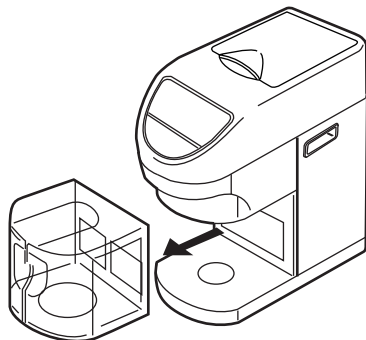
■ 保温ケースの外し方／取付け方

1 トレイを外す。

P10「トレイの外し方／
取付け方」参照

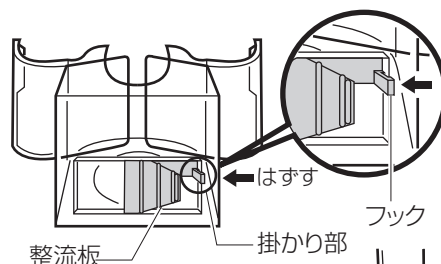


2 保温ケースを前へ 引き出して本体より外す。

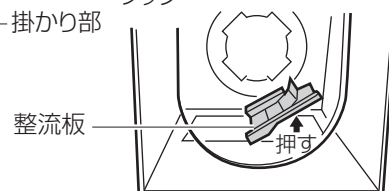


3 整流板を保温ケースから外す

①図のようにとびらを開けた状態で、整流板の
フックを押して掛かり部を外します。

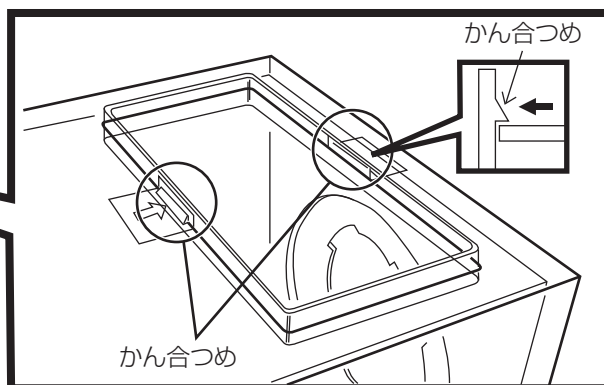
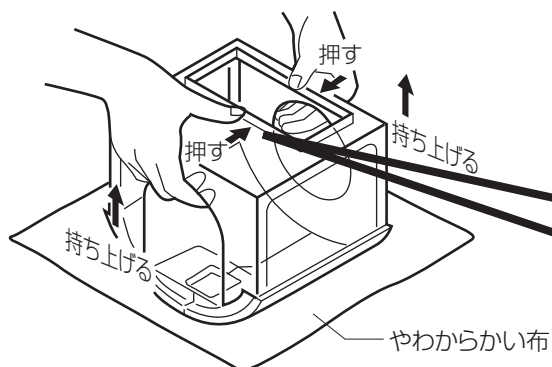


②後ろから
整流板を前に
押し、取り
外します。



4 保温ケース内・外を外す。

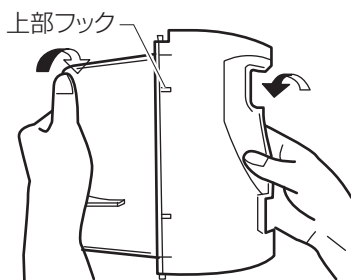
保温ケース背面のかん合つめを内側へ押しながら、
保温ケース外を上を持ち上げるようにして外します。



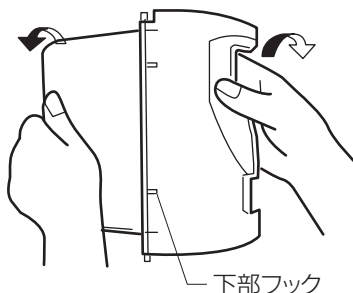
保温ケース内・外を分解すると、左・右とびらが外れます。
分解した部品を落下・破損しないよう、分解作業はテーブル上などで行ってください。

5 左右のとびらをそれぞれ内・外の部品に分解する。

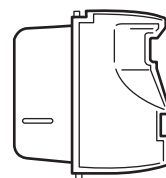
①図のようにとびらを持ち、
矢印の方向にひねると
変形させると上フックが
外れます。



②次に反対側にひねると
下フックが外れ、内・外の
部品に分解できます。



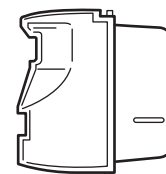
とびらは左右対象です。



左とびら内



左とびら外



右とびら内



右とびら外



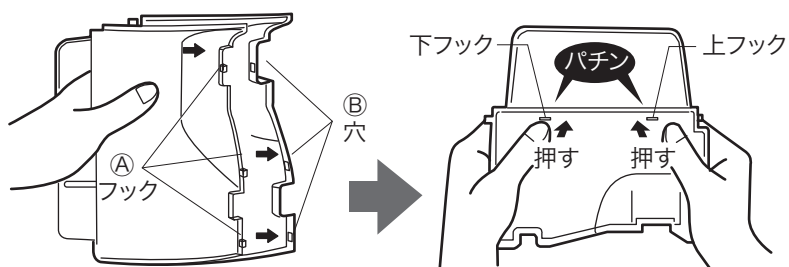
分解した部品を落下・破損しないよう、分解作業はテーブル上などで行ってください。

お手入れ

6 お手入れ後は、逆の手順で組み立てる。

とびら外にある④のフック（3カ所）をとびら内にある⑤の穴に差し込んだ状態で、反対側を押し込む。

パチンという音がして上・下フックがセットされればとびらの組み立ては完了です。

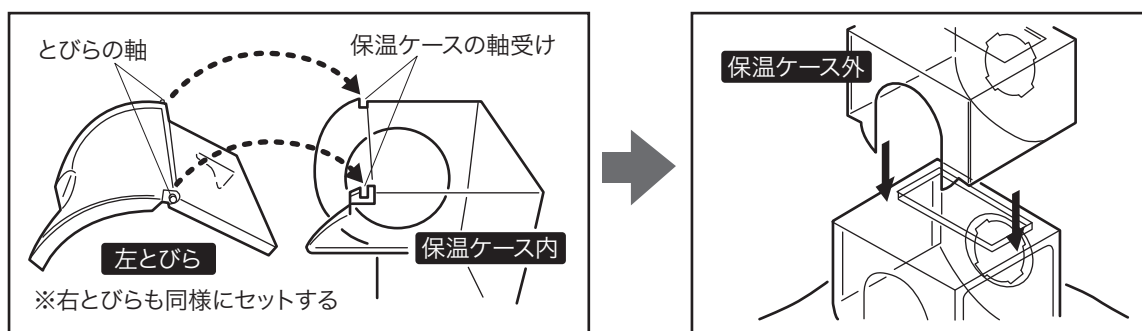


ご注意

分解した部品を落下・破損しないよう、分解作業はテーブル上などで行ってください。

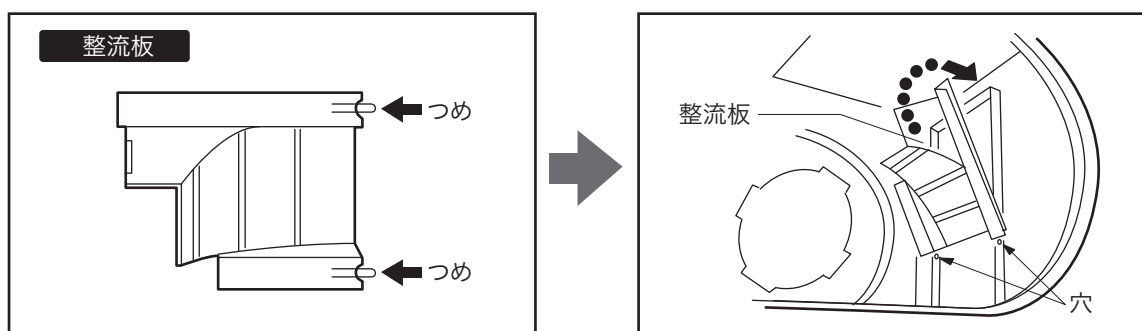
■ 保温ケース内・外の組み立て

とびらの軸を保温ケース内の軸受けとなる溝にセットし、保温ケース外をかぶせて上から押すとパチンと音がして保温ケースの組み立てが完了します。



■ 整流板の取り付け

整流板の取り付けは図のように、つめ（2カ所）を、保温ケースの穴に差し込み、時計まわりに回転させるように取り付けます。



ご注意

保温ケース内と外を「パチン」という音がするまで押し、かん合つめが正しくセットされたことを確認してください。

お手入れ

スケール除去

3ヶ月に1回が目安となります。

コーヒーマシンをご使用のお客様に、常に安定したおいしいコーヒーを抽出していただくため、定期的なスケール除去をお願いします。

※ご使用になる水の硬度が高い場合は、より短期間でのスケール除去が必要となります。

準備

1 電源プラグをコンセントから抜き、タンク内の湯をすべて排水します。

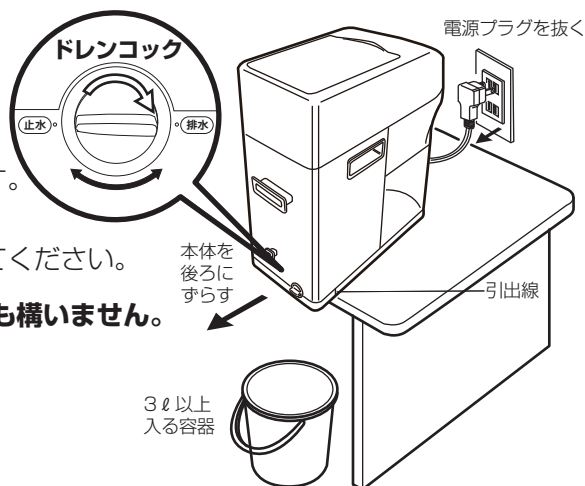
排水後は排水レバー・排水栓などは閉めてください。

注水口に浄水フィルター等が取り付けられている場合は、取り外してください。



ご注意

※排水時、高温に注意してください。本体が冷えてから排水しても構いません。



洗浄

2 コップ1杯分程度のぬるま湯に
NSL-1500を20ml混ぜ、
これを注水口から入れ、
そのまま10分以上放置します。



コップ1杯分
程度のぬるま湯に
NSL-1500を
20ml混ぜる



10分以上
放置

3 放置後、注水口から水を入れ、タンクを満水にします。
このとき、抽出口から液がでてきます。デカンタ等の
容器で受けとめ、その後すててください。
入れる水の総量は、1,800ml以上入れてください。

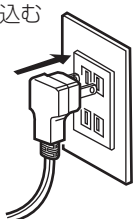
※水を入れすぎると
洗浄剤が薄まり、
スケール除去の
効果が低くなります。



4 電源プラグをコンセントに差込み、
電源を入れます。
そのまま1時間30分以上放置します。

※放置時間が長いほど、スケール除去の
効果が高くなります。

電源プラグを
コンセントに
差し込む



電源を入れる



1時間30分以上
放置

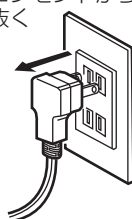
5 放置後、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、
タンク内の液をすべて排水します。
排水後は排水レバー・排水栓などは閉めてください。



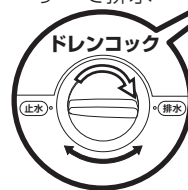
ご注意

※排水時、高温に注意してください。
本体が冷えてから排水しても
構いません。

電源プラグを
コンセントから
抜く



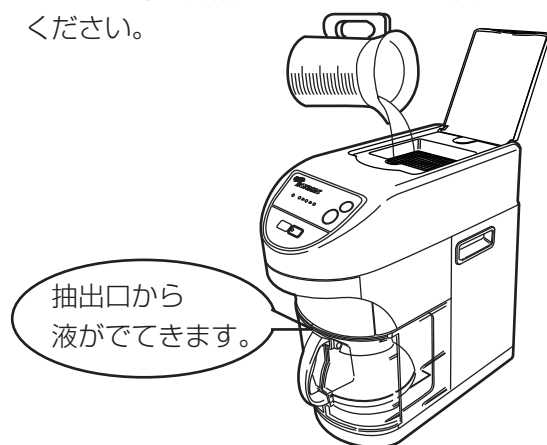
タンク内の液を
すべて排水



スケール除去

すすぎ

- 6** 注水口から水を入れ、タンクを満水にします。
このとき、抽出口から水がでできます。
デカンタ等の容器で受けとめ、その後すててください。

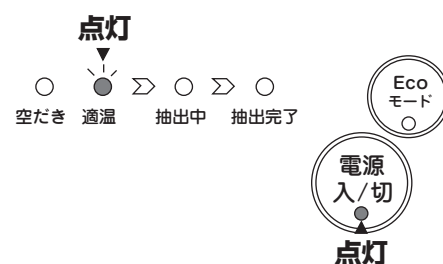
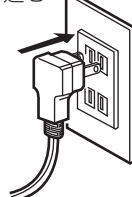


- 8** フィルター・コーヒー粉を使用せずに
最大抽出量で 1 回抽出を行ってください。
抽出口から湯がでできます。デカンタ等の容器で
受けとめ、その後すててください。



- 7** 電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れ、
湯を沸かしてください。
湯が沸いたら、「適温」ランプが点灯します。

電源プラグを
コンセントに
差し込む

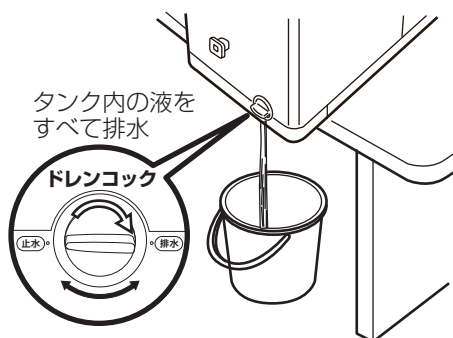
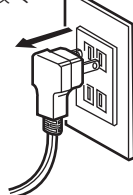


- 9** 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、
タンク内の液をすべて排水します。
排水後は排水レバー・排水栓などは閉めてください。



※排水時、高温に注意してください。
本体が冷えてから排水しても
構いません。

電源プラグを
コンセントから
抜く



以上でスケール除去作業は終了です。

すすぎ後も洗浄剤のにおいが気になるときには、すすぎを繰り返してください。



使用するスケール除去剤
BONMAC NSL-1500 (100ml×2 本入)
商品コード #889356
価 格 ¥1,500(税 抜)

故障かな？&仕様

故障かな？

◎ 次のような場合は故障でないことがありますので、お申しつけの前にもう一度ご確認ください。

こんなとき	次の点をご確認ください。
コーヒーがぬるい	・ 適温ランプが点灯する前に抽出していませんか。 ・ コンセントは専用で使用していますか。 ・ 風の通る場所に置いていませんか。 ・ デカンタのふたはしっかり閉まっていますか？
適温ランプが点灯しない	・ 電源プラグは確実に差し込まれていますか。 ・ 電源ボタンを「入」にしていますか。 ・ 湯沸かしタンクに水が入っていますか。 ※湯沸かしタンクに水を入れずに電源ボタンを「入」にすると、空だき状態となり空だき防止機能が働きます。 P7「空だき防止機能について」を参考に通常動作に戻してください。

◎ 次のようなことは故障ではありません。

こんなとき	このような理由です。
本体の側面が熱い	・ 高温の温水を貯湯しているためです。
注水した後「ゴー」という音がする	・ 湯沸かしタンクの湯を沸かしている音です。
注水口フタ内面に露がつく	・ 温水を貯湯しているためです。

仕 様

形 名	BM-3100
外形寸法 (mm)	幅 204 / 奥行 435 (チャンバー装着時) / 高さ 430
重 量	6.7kg (乾燥重量)
電 源	単相 100V、50/60Hz
消 費 電 力	900W (タンクヒーター800W+温風ヒーター 100W)
電源コードの長さ	190cm
湯沸かしタンク容量	2.7L
抽 出 能 力	9.6L
初動沸き上がり時間	約20分
抽出カップ数	5~10カップ
温度ヒューズ	172℃ (2個) 【湯沸かし】、192℃ 【温風】
付 属 品	ペーパーフィルターNo.250、チャンバー、水差し、デカンタ 簡易浄水フィルターセット

注意：上記の仕様は、品質向上のため予告なしに変更されることがありますのでご了承ください。

[illegible]

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no text or other markings on the paper.

[illegible]

製品保証書

型 式	BM-3100 カルド	機番	保証期間
お 客 様	お名前 様		お買上げ日より1カ年
	ご住所 〒		お買上げ日
	電話 () ー		* 年 月 日
*販売店名			
住所			
電話 () ー			

本書はお買上げ日から上記期間中に故障が生じた場合に、本書下記記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。詳細は下記をご参照ください。
ご販売店さまへ：*印欄は必ず記入してお渡してください。

無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合には、無料修理させていただきます。無料修理をご依頼になる場合には、お買上げ店にお申し付けください。
- 保証期間内でも次の場合には有料にさせていただきます。
 - (イ) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による、故障及び損傷。
 - (ロ) お買上げ後の取付け場所の移設、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - (ハ) 火災、地震、水害、落雷その他の天災地変及び公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷。
 - (ニ) 車両、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷。
 - (ホ) 本書のご提示がない場合。
 - (ヘ) 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
 - (ト) 遠隔地へ出張修理を行う場合の出張に要する費用。
- この製品の補修用性能部品の保有期間は製造切後5年です。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
- 本書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。
 - * この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買上げの販売店にお問い合わせください。

ラッキ-コ-ヒ-マシン 株式会社

本 社 〒658-0023 神戸市東灘区深江浜町95番 TEL(078)451-8300 FAX(078)451-5777

東京本部

広 域 営 業 部 〒105-0004 東京都港区新橋6丁目1-11 Daiwa御成門ビル TEL(03)5400-3483 FAX(03)5400-5724

営業所

札幌営業所 〒004-0005 札幌市厚別区厚別東五条1丁目4番26号 TEL(011)898-3636 FAX(011)897-1467
東京営業所/東京ショールーム 〒105-0004 東京都港区新橋6丁目1-11 Daiwa御成門ビル TEL(03)5400-5720 FAX(03)5400-5723
名古屋営業所/名古屋ショールーム 〒451-0046 名古屋市中区牛島町5番4号 TEL(052)587-7678 FAX(052)587-7677
大阪営業所/大阪ショールーム 〒537-0001 大阪市東成区深江北3丁目5番7号 TEL(06)4259-2655 FAX(06)4259-2660
福岡営業所 〒813-0062 福岡市東区松島6丁目2-1 TEL(092)292-0335 FAX(092)292-0356
福岡ショールーム 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目9-3 博多駅前シティビル TEL(092)292-0335 FAX(092)292-0356

20.07 RE